

高砂市民・事業所アンケートのまとめ（中間報告）

○市民アンケート

設 問	第 1 部会（総務）	第 2 部会（建設経済）	第 3 部会（文教厚生）
<p>1. 高砂市の住み心地について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活環境 都市施設 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に評価が低く、生活環境 26 項目中 22 項目、都市施設 25 項目中 23 項目で満足度より不満度が高い。 満足度が高い項目は、「ごみ収集」、「買い物や食事など」、「交通機関（JR／山陽電鉄）」、「市ノ池公園」、「総合運動公園」、「全体的な住みごこち」である。 特に不満度が高い項目は、「駅前整備」、「図書館」、「下水道料金」、「子どもの遊び場」、「街灯・防犯灯の整備」、「駅前や公共施設の緑化」、「市民病院」である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境について、ごみ収集や買い物の利便性、鉄道利便性の満足度は高い。反対に駅前整備や子どもの遊び場、駐車場、騒音・振動・悪臭防止などについては不満度が高い。 都市施設については、市ノ池公園や総合運動公園の満足度は高いが、反対に下水道料金、駅前・公共施設の緑化などの不満度が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境について、医療体制や芸術・文化活動、高齢者環境については不満度が高い。 都市施設については、図書館や市民病院の不満度が高い。
<p>2. まちのイメージと将来像について</p> <ul style="list-style-type: none"> 高砂市の魅力 	<ul style="list-style-type: none"> 市の魅力は「買い物などの日常生活の便利さ」をあげる人が最も多く、次いで「神戸・姫路など大都市部への交通利便性の高さ」、「高砂海浜公園、高御位山などの自然環境の豊かさ」となっている。 阿弥陀地区では「高砂海浜公園、高御位山などの自然環境の豊かさ」、伊保地区や荒井地区では「買い物などの日常生活の便利さ」を魅力とする人が多い。 前回、前々回と比較し、「買い物などの日常生活の便利さ」、「高い建物が無い、低層住宅の街並み」を魅力とする割合が増加している。 年代別では、「高砂海浜公園、高御位山などの自然環境の豊かさ」、「買い物などの日常生活の便利さ」については高年層、「職場と住居が近接した勤務・通勤の便利さ」、「公共料金の安さ」については若年層で魅力を感じる割合が多い。 		
<ul style="list-style-type: none"> 将来の都市像 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の都市像として「福祉・保健・医療・高齢化対策が充実した福祉都市」が約 4 割と最も望まれており、次いで「道路、下水道、公園、消防施設などの都市基盤が整備された災害に強い、安全に暮らせる安全都市」、「心のふれあいや助け合いの精神があり、人のぬくもりが感じられるコミュニティ都市」となっている。 前回、前々回と比較し、「福祉・保健・医療・高齢化対策が充実した福祉都市」を望む割合が増加している。 		

設 問	第 1 部会（総務）	第 2 部会（建設経済）	第 3 部会（文教厚生）
<p>3. 今後のまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のある主要施策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のある施策として「高齢者福祉の充実」、「保健・医療の充実」が約3割強と関心が高く、次いで「市民生活の安全」、「児童福祉の充実」、「環境保全対策の充実」となっている。 ・ ハード整備への関心は低く、福祉や医療などソフト施策への関心が高まっている。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高砂市の魅力を高める施設整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「芸術・文化活動を活発化できる施設」、「河川空間を活用したレクリエーション施設」を求める声が多い。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高砂市の魅力を高めるソフト施策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 半数以上が「各医療機関の連携などによる、医療体制の充実」が重要であるとしている。次いで、「子どもの育成や子育て家庭への支援などによる、少子化対策の充実」、「家族やコミュニティで高齢者や障がい者を支援するための制度づくり」が望まれている。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行財政の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「職員数の抑制」、「議員数の見直し」、「職員給与や手当などの見直し」を重視する声が多い。 ・ ソフト面では「より質の高い行政サービスの向上」、「施設の適正規模・適正配置の検討による統廃合など、有効的な利用」を重視する声が多い。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高砂市民病院に期待する役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「医師確保・診療科の充実」への期待が最も多く、次いで「緊急医療体制の充実」が多い。 ・ 「その他」として、「産科や小児科の診療再開」を望む意見が多くあげられた。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高砂市民病院の規模 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状維持が約6割で最も多い。 ・ 「その他」として、「加古川市民病院との連携」や「医師が働きやすい環境整備」など、規模より中身を充実すべきという意見が多くあげられた。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクル施策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「リサイクル可能な資源の交換が図れる機会の創出」が効果的とする意見が最も多い。 ・ 「その他」として、「ごみの分別やポイ捨てに対する市民意識の向上が重要」とする意見が多くあげられた。 		

設 問	第 1 部会（総務）	第 2 部会（建設経済）	第 3 部会（文教厚生）
<ul style="list-style-type: none"> ・環境にやさしいまちづくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・「太陽光発電への補助など地球温暖化防止対策の推進」、「市民が生活の中で気軽に取り組める『エコライフ活動』の啓発」、「護岸に自然石を使ったり、植生を残したりするなど、様々な生き物の生態に配慮した多自然型の河川整備」を重視する意見が多い。 ・「市民が生活の中で気軽に取り組める『エコライフ活動』の啓発」については高年層、「太陽光発電への補助など地球温暖化防止対策の推進」については若年層で重要とする割合が多い。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施策 			<ul style="list-style-type: none"> ・「仕事と育児を両立できるよう保護者の雇用環境の整備促進」、「子育て費用の負担軽減」、「すべての子どもを地域で健やかに育成できる療育体制の充実」への要望が多い。 ・「子育て費用の負担軽減」については若年層で重視する割合が多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉対策 			<ul style="list-style-type: none"> ・「在宅福祉サービスの充実」、「福祉施設サービスの充実」、「健康づくり、保健・医療対策の充実」への要望が多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育 			<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳教育の推進」が最も必要とする意見が多く、特に高年層で多い。 ・次いで「基礎基本学力の充実」、「健康な生活の基礎を培う健康教育の推進」が多い。 ・「その他」として、「保護者の教育が重要」とする意見が多くあげられた。

設 問	第 1 部会（総務）	第 2 部会（建設経済）	第 3 部会（文教厚生）
・ 商業施設		・ 大規模ショッピングセンターの設置より、駅周辺既存商業施設や商店街の整備・拡充を望む意見が多い。	
・ 産業政策		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地元採用の拡大」を重視する割合が最も多く、次いで「多様な専門知識・技術をもった退職者の有効活用制度の充実」、「道路・交通網などの整備」が多い。 ・ 「多様な専門知識・技術をもった退職者の有効活用制度の充実」については高年層、「道路・交通網などの整備」については若年層が多い。 	
・ 市のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市のイメージとして「愛・長寿・和合・平和をテーマに掲げた『ブライダル都市のまち』」、「生活環境の良好な『住宅のまち』」、「緑や水辺に恵まれた『自然環境に恵まれたまち』」が多くあげられた。 ・ しかし、高砂市のイメージが「わからない」とする割合が最も多く、特に若年層が多い。 ・ 「その他」として、「他市と比較し整備が遅れている」、「昔の活気や賑わいが無い」、「全てが中途半端」など悪いイメージがあげられた。 		
4. 都市計画について ・ 市全体のまちづくり		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「各地区とも均等に整備を行い、地域格差が生じないようなまちづくりを行う」と「整備・開発する所と保全する所のメリハリをつけたまちづくりを行う」が約3割強と多く、意見が分かれる。 ・ 「各地区とも均等に整備を行い、地域格差が生じないようなまちづくりを行う」については、女性や高年層が多い。 ・ 「整備・開発する所と保全する所のメリハリをつけたまちづくりを行う」については男性や若年層が多い。 	

設 問	第 1 部会（総務）	第 2 部会（建設経済）	第 3 部会（文教厚生）
<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用の規制 		<ul style="list-style-type: none"> ・「規制すべき地域は規制強化し、市の発展や地域の活性化を行う地域は、もう少し規制を緩和すべきである」の方向を望む意見が最も多い。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・都市基盤・都市施設 		<ul style="list-style-type: none"> ・高砂市全体に必要な都市基盤・都市施設として、「歩行者や自転車の安全な通行のための道路整備」を必要とする割合が最も多い。 ・次いで「夜間の犯罪や事故を防ぐための防犯灯・街灯の整備」、「バス・鉄道などの公共交通の充実」が多い。 ・居住地区に必要な都市基盤・都市施設として、伊保地区では「夜間の犯罪や事故を防ぐための防犯灯・街灯の整備」、「日常の憩いのための身近な広場や公園の整備」、阿弥陀地区と中筋地区では「下水道の整備」、北浜地区では「地域間をつなぐ道路網の整備」が多い。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・防災対策 		<ul style="list-style-type: none"> ・「狭い道路の整備・解消」を望む意見が最も多く、次いで「避難地・避難路の整備」、「建築物の不燃化・耐震化」が多い。 	

設 問	第 1 部会（総務）	第 2 部会（建設経済）	第 3 部会（文教厚生）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境・景観 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「森林や丘陵、水辺など自然景観を残す」を重要とする意見が最も多く、次いで「歩道などの電柱をなくし、街路樹を植えて道路をすっきりときれいにする」、「古い街並みなど、特色のある地域・建物を指定し、保全・再生していく」が多い。 ・ 高年層では「車に頼らず徒歩や自転車で生活できるコンパクトシティをつくる」を望む意見も多く、若年層では「古い街並みなど、特色のある地域・建物を指定し、保全・再生していく」が多い。 	
<p>5. 市民と地域や行政との関わりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の地域社会活動の参加状況 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「道路・河川・公園などの清掃、草刈などの環境美化運動」、「自治会・婦人会・老人会などの地域活動、祭りなどの地域行事」、「資源回収や不用品交換などのリサイクル活動」が多い。 ・ 阿弥陀地区や伊保地区での参加状況が活発であり、高砂地区や曾根地区では少ない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の地域社会活動の参加意向 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加状況と比較し趣味スポーツなどのグループ活動、生涯学習への参加、各種ボランティア活動への参加が多い。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の市政参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「意見募集の実施」を重要とする割合が最も多く、次いで「定期的なアンケート調査の実施」が多い。 ・ 「その他」として、「ホームページ等を活用した市政の情報公開の充実」、「市民が参加できる活動の広報の充実」などがあげられた。 		

設 問	第 1 部会（総務）	第 2 部会（建設経済）	第 3 部会（文教厚生）
6. 男女共同参画について ・男女共同参画の認知度		<ul style="list-style-type: none"> ・約7割が男女共同参画という言葉を知っており、そのうち約4割が内容まで知っている。 	
・男女の役割固定について		<ul style="list-style-type: none"> ・全体では、「賛成」と「反対」が約4割ずつと同程度である。 ・若年層の女性では反対の意見が多い。 	
・各分野における男女の立場		<ul style="list-style-type: none"> ・全分野において、「男性優遇」と感じており、女性の方がより「男性優遇」を強く感じている。 	
・地域社会活動の男女共同参画の状況		<ul style="list-style-type: none"> ・「団体の会長に男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が最も多い。 	
・男女共同参画の促進		<ul style="list-style-type: none"> ・「男女が協力して働き続けられるよう育児休業、介護休業、保育制度の充実を行う」や「家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと」が必要であるという意見が多い。 	
7. 人権問題について ・人権問題施策			<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害のある人の人権への関心が多く、時代を反映してインターネットによる人権侵害も関心が高い。 ・高年層では特に「高齢者の人権」が多い。 ・若年層では、「障がいのある人の人権」、「インターネットによる人権侵害」が多い。

設 問	第 1 部会（総務）	第 2 部会（建設経済）	第 3 部会（文教厚生）
8. 健康増進について ・健康診断の受診			<ul style="list-style-type: none"> ・約 3 割が健康診断を受診しておらず、特に、女性 30 歳代の受診していない割合が多い。 ・健康診断の受診先は、「職場の健診」が最も多く、高年層は「市の健診」、「自費で健診」が多い。
・がん検診の受診			<ul style="list-style-type: none"> ・約 6 割が、がん検診を受診しておらず、特に、若年層の受診していない割合が多い。 ・検診別では、男性の「胃がん検診」が最も多く約 8 割受診しており、次いで女性の「子宮がん検診」が約 7 割、男性の「大腸がん検診」が約 6 割である。
・受診しない理由			<ul style="list-style-type: none"> ・「時間がない」、「料金が高い」ため受診しない割合が多い。 ・「その他」として、「病院に通院しているから」という意見が多く、「検診方法がわからない」という意見もあげられた。
・日常の運動の有無			<ul style="list-style-type: none"> ・日常の運動を「続けている」割合は約 4 割であり、女性の若年層で少ない。 ・男性の 70 歳以上では、半数以上が日常の運動を「続けている」。
・ストレスの有無			<ul style="list-style-type: none"> ・約 7 割の人がストレスを感じており、特に男性 40 歳代では約 9 割と多い。 ・男女とも 60 歳以上では「ストレスを感じている」割合が少ない。

○事業所アンケート

設 問	第 1 部会（総務）	第 2 部会（建設経済）	第 3 部会（文教厚生）
1. 現在の高砂市について ・事業所の維持 ・今後の事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 割以上の事業所が、今後も高砂市内で事業所を維持していく意向である。 ・ 事業所の約 7 割が現状維持、約 2 割が事業拡大を希望している。 		
・事業所の設置理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置理由としては、「地元である」が約 7 割、「経営者などの個人的つながり」が約 2 割である。 		
・企業を取り巻く環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高砂市の生活環境として、22 項目中、満足度が高いのは 11 項目、不満度が高いのも 11 項目である。 ・ 特に満足度が高い項目は、「ごみ収集、一般廃棄物・産業廃棄物対策」、「火災・救急・救助への対策」、「交通機関（JR／山陽電鉄）」、「金融機関の立地」である。 ・ 特に不満度が高い項目は、「駅前整備」、「高度情報化対策」、「道路、河川、溝などの美化」、「医療体制」、「芸術・文化活動」である。 		
2. 将来のまちづくりについて ・将来の都市像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目指すべき都市像として「福祉・保健・医療・高齢化対策が充実した福祉都市」が最も望まれており、次いで「産業、工業の盛んな活気みなぎる産業都市」となっている。 ・ 前々回では「都市基盤の整備された都市」、前回では「道路、下水道、公園などの都市基盤が整備された災害に強い、安全に暮らせる安心都市」が望まれていたが、本調査では「産業、工業の盛んな活気みなぎる産業都市」の次となっている。 		
・関心のある主要施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のある施策として「商工業の活性化」、「高齢者福祉の充実」、「保健・医療の充実」が約 3 割と多い。 		
・まちづくりへの参画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「市や地域が主催する『まつり』などに対する参加協力」が最も多く、次いで「地域の社会奉仕活動に対する積極的な参加協力」が多い。 		
・市民・事業所・市協働の手法についての自由回答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「定期的な懇談会の開催」、「常に市民の意見をアピールできる場づくり」、「事業所の能力を活用した市民講座の開催」、「高齢者パワーの活用」などがあげられた。 		

設 問	第 1 部会（総務）	第 2 部会（建設経済）	第 3 部会（文教厚生）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所の業況 ・ 業況悪化の原因 ・ 業況悪化の打開策 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所の約 7 割が業況は「多少悪い」、「悪い」としており、そのうちの約 7 割が「個人消費の低迷」を業況悪化の原因として考えている。 ・ 打開策として「減税など支出抑制のための支援」が最も望まれている。 	
<p>3. 産業の発展について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工業の現状 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業の現状は「全体的に低下している」とする事業所が半数を占めている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業の将来像 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「情報産業などの付加価値の高い産業を誘致する」、「現在の重工業型を維持する」、「本社機能を持つ事業所を誘致する」が約 2 割と望ましい工業の将来像が分かれる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業発展施策 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「道路、交通網などを整備する」や「中小企業への融資など優遇措置を行う」が望まれている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業の現状 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業の現状は「近隣や大都市部などへ顧客が流出し低下している」と判断する事業所が半数を占めている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街の将来像 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「商業店舗や子育て支援、公共施設など多様な施設が集積した、便利な商店街」、「独自商品の販売など特徴ある店舗の多い商店街」、「人々の会話で賑わっている、活気ある商店街」が約 2 割と望ましい商店街の将来像が分かれる。 	

設 問	第 1 部会 (総務)	第 2 部会 (建設経済)	第 3 部会 (文教厚生)
・商店街の活性化施策		・「空き店舗を活用した施設開設・運営」が約 4 割強と最も多く、次いで「店主の意識改革」、「公共交通と連携したサービスの実施」が多い。	
・プレミアム商品券の参加状況・意向		・約 2 割の事業所が「プレミアム商品券の販売、取扱」に参加していたが、そのうち半数が「今後は参加したくない」としている。 ・参加していない約 3 割の事業所のうち、約 7 割が「今後も参加したくない」としている。	
・プレミアム商品券の不参加理由		・「売り上げに効果が現れなかった」、「商品券の管理・換金をする手間がかかるから」が多い。	
・プレミアム商品券の活用状況		・約 4 割の事業所が「活用されていない」としており、「活用されている」の約 1 割を上回っている。	
・プレミアム商品券の今後の実施意向		・今後も「実施した方がよい」と「実施しなくてよい」は、地域により分かれる。	
・農林水産業への親近感		・約半数の事業所が「農業も水産業も身近に感じない」としている。	
・農林水産業の現状		・「高砂市でどのような農水産物がとれるのかわからない」が約 4 割と最も多い。	

設 問	第 1 部会（総務）	第 2 部会（建設経済）	第 3 部会（文教厚生）
・農林水産業の活性化施策		・「地元産の農産物や水産物を購入できる直売所の開設」が最も多く、次いで「荒れた農地の有効活用」、「特産品の開発やPR」が多い。	
・農林水産業への参入		・「参入は考えていない」事業所が約5割、「関心はあるが、具体的な予定はない」事業所が約2割である。	
4. 市のイメージについて ・市のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・市のイメージが「わからない」とする事業所が最も多く約2割強である。 ・「愛・長寿・和合・平和をテーマに掲げた『ブライダル都市のまち』」、「緑や水辺に恵まれた『自然環境に恵まれたまち』」、「生活環境の良好な『住宅のまち』」、「その他」が約1割ずつとなっている。 ・その他の意見として、「昔の活気がなく中途半端」、「良いイメージがない」など悪いイメージがあげられた。 		
・ブライダル都市の認知度	<ul style="list-style-type: none"> ・約9割の事業所が「ブライダル都市高砂」宣言を知っており、約1割は設立趣旨等も理解している。 		
・ぼっくりんの認知度	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼっくりんを「知っている」事業所が約5割、「知らない」事業所が約4割である。 ・「ブライダル都市高砂」と比較し、認知度は低い。 		
・事業所でのイメージアップの取組みについての自由回答	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやパンフレットに高砂神社を掲載している事業所や各企業の紹介をしている事業所がある。 		
・ブライダル・ぼっくりんの活用法	<ul style="list-style-type: none"> ・「特に考えていない」が約5割、「現時点では、わからない」が約3割であり、「考えている」事業所は3%にも満たない。 		
・まちづくりやイメージアップについての自由回答	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりについては、コンセプトをもったまちづくりや市民を重視したまちづくり、賑わいのあるまちづくり、駅前の活性化を望む意見が見られる。 ・都市施設としては、道路網や公共交通、公園、図書館の整備や充実を求める意見が多い。 ・市民交流や地域活動については、住民間の連携強化の必要性、地域活動の推進、食をテーマとした生産者と消費者が交流できる場づくり、花火大会等のイベントの開催を望む意見が見られる。 ・今後の高砂市のPRについては、ブライダル都市を強調した積極的な情報発信、集客できるイベントとの連携が必要であるという意見が見られる。 		